



体調を崩して
子犬を残し施設へ入所！



救急搬送されて
犬だけ2ヶ月間取り残される！

あなたの愛犬が

“保護犬”

になる現実を

想像したことありますか？



犬嫌いの親族に託したら
一日中閉じ込められた！



子ども夫婦に頼んだのに
病気が放置された！



病院に連れて行けず
全身ガンだらけに！



庭から脱走して
何人も咬んだ！



人に懐かず
引き取り手がない！

保護犬は、特別な存在ではなくなりました



かつては、人が犬や猫を捨てたり、保健センターや動物愛護センターで動物を殺処分されたりすることは珍しいことではありませんでした。しかし現代では、動物を捨てることは犯罪となり、各地の愛護センターも引き取りを拒否したり、動物愛護団体が保護活動を行うことで、殺処分される動物は以前の20分の1以下にまで減少しました。

高齢者と暮らしていた犬の保護が増えています

世界一、高齢化社会が進む現代日本では、並行するように犬猫の高齢化も進み、高齢者が購入した子犬の方が長生きすることも少なくありません。その結果、飼い主が先に面倒見きれなくなり、託す家族がないことで愛犬が保護されるケースが後を絶ちません。そのため、保護犬における高齢者と暮らしていた犬の割合は年々増加傾向にあります。



*2022年度
NPO法人DOG DUCA実績



高齢の飼い主が知っておくべき現実があります

高齢の方が犬と暮らすことは心身ともに好ましい影響を及ぼすこともありますが、一方で、万が一の時の備えがないことで残された愛犬が不幸になることもあります。

何週間も、暗い部屋に取り残されてしまうことも！



よくあるケース①
～世話ができない～

飼い主が長期入院や施設入所する以前から自分の身の回りのことができないことが多く、犬の健康状態も悪くなってしまふ。持病のある犬は治療費がかかるため、引き取り先が見つかりにくい上、最悪、命を失うことも。

迷惑な存在として、たらし回しになってしまうことも！



よくあるケース②
～託すことができない～

普段から子どもと疎遠で、犬と接触がない場合、犬が懐かないばかりか吠えたりすることもあるため、子どもが引き取っても愛情が湧かず、動物病院はおろか散歩にも連れて行かなかつたり、飼育放棄したりすることもある。

病状が進行しすぎていて、治療が手遅れになることも！



よくあるケース③
～金銭的余裕がない～

生活保護を受けていたりして動物病院に連れて行けない、高額の高齢犬ホームに頼むことができず限界まで飼育続ける人も。ペット不可の公営住宅の建て替えで立ち退きにあい、ペット可住宅へ引っ越せず手放す人も。



愛犬のためにやっておくべきこと

- 誰に引き取ってもらうか決めておく
残された犬の扱いを決めるのに時間がかかります。
- 予め書面に残しておく
所有権があるために数週間放置されることもあります。
- 普段から他の人にも慣れさせておく
懐かないと引き取り手が見つかりにくく、最悪殺処分。
- 必要なものを用意しておく
病院の書類などがあると、引き取り後の治療がスムーズ。
- 早めに手放す覚悟を持っておく
自分の身の回りのことができなくなったら限界です。

NPO法人 DOG DUCA

プロドッグトレーナーのいる動物愛護団体で、殺処分されやすい、吠える・咬みつくなどが理由で飼育放棄された犬を保護してトレーニングしています。2001年以来、1000頭以上の犬を保護・譲渡してきました。2019年からは、高齢者と暮らしていた行き場のない高齢犬を保護して、健康な高齢者に譲渡する「シニアドッグ・サポーター」制度を開始。飼い主と離別せざるを得なかった保護犬と、里親になりたくてもなれない高齢者をつなぎ、幸せにしました。しかし、高齢者と暮らしていた犬は大半が高齢化しており、持病を抱えている犬も少なくありません。そのため、譲渡ができず施設で終生飼養となつたり、治療に時間がかかつたりという費用面の課題に直面しながら活動を続けています。



飼い主と死別した保護犬と新たな里親をつなぐシニアドッグ・サポーター



講演依頼・支援のご相談はコチラ

特定非営利活動法人 DOG DUCA(ドッグデュッカ) 名古屋市守山区金屋1-23-26

☎ 052-795-5003 <https://dogduca.com>

